

認定こども園

令和元年10月29日

敬愛短大附属幼稚園だより 11月号

1ヶ月に2度の台風が各地で大きな被害をもたらし、今なお、復旧に向けて多くの方が苦労されています。幸い、今回の台風は敬愛幼稚園では被害もなく、普段と変わらない生活ができる事を幸せに感じます。

敬愛幼稚園の子どもたちは、12月の生活発表会に向けてそれぞれの学年が遊戯室等で取り組みを開始しています。当日は園児たちのがんばる姿をご覧いただき、ご家族皆様に熱い視線をお送りください。

1 中華人民共和国から幼稚園の視察があります

11月14日(木)に中華人民共和国雲南省昆明市 昆明地球村幼稚園グループの21名のお客様が来園し、園児たちの保育の視察が予定されています。市内では当園を含めて2園だけの視察となっております。視察団は園長、教諭、栄養士、養護教諭、通訳からなる団体です。

敬愛幼稚園には中国のお子さんも在園しているので、当日は視察団の方とお話する機会もあるかもしれません。園長の方で敬愛幼稚園の教育等について説明をしますので、中国語でPowerPointを使つての説明を制作しました。無事に内容を理解されるか心配ですが頑張ります。

2 保育者を目指す短大生に身につけてほしいこと

千葉敬愛短期大学の学生が、観察参加実習として一週間交代で一年生の全てが入学して初めて本園に実習にきました。子どもたちにとっては、より近い存在のお兄さん・お姉さん先生です。私も短大で授業をしていますので、将来、保育者として子どもたちの教育に関わる学生の資質や考え方の向上、社会性は常に気になります。2年間という短い期間で、ピアノをはじめとする様々な学びを身につけて、保育士としての資格を取得していくわけですが、卒業後は社会人としての道を歩むこととなります。

また、就職して初日から「先生」と呼ばれるわけですので、「先生」にふさわしい資質が必要となり、大切な子どもたちを担任するという大きな責任があります。社会人ともなればこれまでとは異なり、様々な点で自分の責任の範囲がとて大きくになります。おそらく、着任当初はその日のことを一通りこなすだけで精一杯かもしれません。しかし、社会人には「まだ先生になったばかりなので」ということは許されません。「先生」と呼ばれるからにはその道のプロでなくてはならないのです。しかも初日からです。そういう覚悟がなくては保育者としての職業生活では通用しないのです。

教育者として陥りがちなことは、以前の自分から離れられずに、決まったことを決まったようにしか反応できないことです。世界は短い単位でとても想像すらできないくらいの勢いで変化してきています。その変化を的確にとらえて自分自身が先を見通して変えて行かなければなりません。そうした大きな揺らぎの中で育つ子どもたちを育てて行くには自分が変わって行かなければ通用しないのです。教育者を目指す学生にはそうした職業生活の厳しさを自覚して、単に子どもが好きというだけではこれからの保育士としては不十分であるということ認識していないといけないということです。

社会人になるということはそういうことで、へこたれずにやりとげるタフさが求められます。自分の意にそわないから行動できないのでは大事な幼児期は任せられません。できなければどうしたらできるようになるかについては、先日のワールドカップラグビーの日本チームが示してくれています。「これまで多くの犠牲を自分に強いてきたけれども結果は自分を裏切らなかった」選手はそう述べています。強い意志のもとに取り組んだ人だけが言えることばです。

3 新入園児ご紹介のお礼

お陰様で、保護者の皆様のご紹介により、本園に入園を希望された多くの方が入園願書を受け取られました。幼稚園がどんなに素晴らしいと思つて様々なことを行つてもそれは自己満足でしかありません。今回のように保護者の方々から客観的に評価をいただいて初めて本物になって行きます。至らない点もまだまだ多く、これからのたくさんのアイディアを出しながら、職員一同、益々仲良く・元気に、そして過去に甘んぜず、大切な子どもたちの幼児期の教育を進めてまいります。「敬愛幼稚園の先生方はチームワークがいいですね」と公開研究会にこられた他園の先生方からもお話を伺っています。これからもお子様の大切な幼児期のお手伝いをさせていただきますので、ご家庭と幼稚園・地域社会が、がっちりスクラムを組んで行きましょう。

(園長 杉山清志)